

へりからふるさとへり

懐かしの夢だより



準市民交流会

平成13年4月に始まった準市民制度。今ではおよそ3,700人もの人が、登録されています。

今年の準市民交流会も沼田まつりに合わせて開催され総勢232人が参加し、和やかな雰囲気の中、盛大に行われました。



バスハイク(利根町散策・南郷の曲屋)

癒しの街に



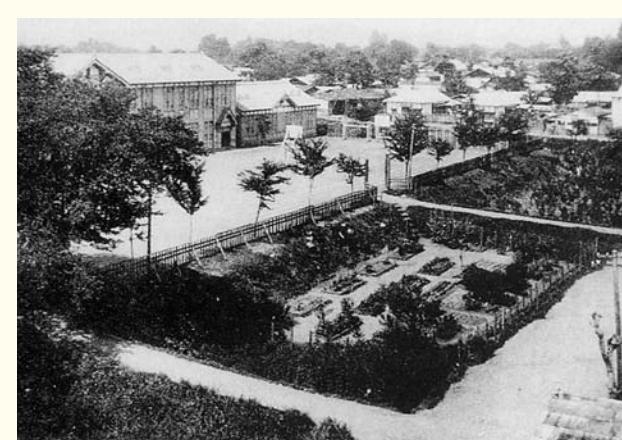
西原新町出身
増田彌生さん(75)
東京都世田谷区

赤ちゃんの笑顔や仕草に出会ったとき、つぶらな瞳から無我の気持ちになっている自分に気付き、癒やしの心をもらいとても嬉しくなります。考え事をしているときなど、「目は『ほどに』ものと言う」と言います。
もちろんの場面で出会う人たち。「何を見つめているの?」と。この歳になると、沼田での生活が懐かしく思い起こされ、また見つめたいくなります。

私は、旧原新町(現西原新町)で生まれ育ち、小学校三年生のときには、家の事情で引っ越しを三回もしました。
小学生のころは、家の前の小さな「せき」で水遊びをしたり、通りで縄跳びや石蹴り、ゴム跳び、鬼ごっこ、竹馬にも乗つたり。小学校四年生のときは、西側の校舎が火災に遭い、燃える火をブルブル震えながら見て、涙を流したことを思い出します。

小学校六年生で受験をして、女学生生活(現沼田女子高校)へ。夢中で過ごした六年間。入学式では、城堀を見て正面玄関脇の松の木の緑がきれいでドキドキしながら受付を済ませ教室へ。冬の教室暖房は、火鉢が一つでその上に弁当箱を乗せて温め、たまら

ます。
街並みからは四季折々の香りをもらい、故郷ってよいと思う反面、賑わいを見せていた本町通りが今は寂しくなり、つらい気持ちになります。
三月に七十五歳になりました。病いと仲良く付き合いつつ、日々感謝の気持ちを持ち続けて、元気で参りたい所存です。



沼田高等女学校を囲む美しい空堀(からぼり)の花壇

ふるさと「谷間」の思い出



利根町日影南郷出身
鈴木恭男さん(66)
埼玉県三芳町

兎追いしかの山

小鮎釣りしかの川：

私の故郷は、唱歌「故郷(ふるさと)」の歌詞を地でいくような所、赤城根村大字日影南郷。昭和三十一年に利根村へ、平成十七年には、沼田市利根町日影南郷へと替わった地です。

南郷は、赤城山北麓の根利川沿いにあります。近くの山々に隠れ、その名山の姿を見ることができない「谷間」の集落です。

春は、一斉に花々が咲き乱れ、新緑がそれらと美を競う中、フキノトウやたらの芽狩り、夏は、根利川で水遊びや魚取り、秋は、紅葉の山に入りクリ狩りやアケビ狩り、そして、冬には、ソリや竹スキーなど四季を通して自然のただ中が子どもたちの遊び場でした。

母校は、赤城根村立南郷小・中学校で後

に小学校は移転し、中学校は平成九年に廃校、跡地は南郷温泉「しゃくなげの湯」に替わりました。

三男坊の私は、中学校一年生の昭和二十九年に、訳あって、単身、東京浅草の叔母の家に移りました。その際、教室の窓から

いい香りの中で勉強したことなど、とても良い思い出です。後半は貧乏を余儀なくされました。級友や上級生、沼田の人たちから癒やしをもらい、私なりの人間性が培われてきたと思っています。

時折帰郷し、谷川岳や武尊山、三国連峰や赤城山が見えると、遠足で小学校一年生のときは川田小学校、三年生は三角山、四年生で三峰山、五年生では子持山に行つた事などが、走馬灯のようによみがえってきます。

赤ちゃんの笑顔や仕草に出会ったとき、つぶらな瞳から無我の気持ちになっている自分に気付き、癒やしの心をもらいとても嬉しくなります。考え事をしているときなど、「目は『ほどに』ものと言う」と言います。

もちろんの場面で出会う人たち。「何を見つめているの?」と。この歳になると、沼田での生活が懐かしく思い起こされ、また見つめたいくなります。

私は、旧原新町(現西原新町)で生まれ育ち、小学校三年生のときには、家の事情で引っ越しを三回もしました。

小学生のころは、家の前の小さな「せき」で水遊びをしたり、通りで縄跳びや石蹴り、ゴム跳び、鬼ごっこ、竹馬にも乗つたり。小学校四年生のときは、西側の校舎が火災に遭い、燃える火をブルブル震えながら見て、涙を流したことを思い出します。

小学校六年生で受験をして、女学生生活(現沼田女子高校)へ。夢中で過ごした六年間。入学式では、城堀を見て正面玄関脇の松の木の緑がきれいでドキドキしながら受付を済ませ教室へ。冬の教室暖房は、火鉢が一つでその上に弁当箱を乗せて温め、たまら

ます。

街並みからは四季折々の香りをもらい、故郷ってよいと思う反面、賑わいを見せていた本町通りが今は寂しくなり、つらい気持ちになります。

三月に七十五歳になりました。病いと仲良く付き合いつつ、日々感謝の気持ちを持ち続けて、元気で参りたい所存です。

私は、西原新町(現西原新町)で生まれ育ち、小学校三年生のときには、家の事情で引っ越しを三回もしました。

小学生のころは、家の前の小さな「せき」で水遊びをしたり、通りで縄跳びや石蹴り、ゴム跳び、鬼ごっこ、竹馬にも乗つたり。小学校四年生のときは、西側の校舎が火災に遭い、燃える火をブルブル震えながら見て、涙を流したことを思い出します。

小学校六年生で受験をして、女学生生活(現沼田女子高校)へ。夢中で過ごした六年間。入学式では、城堀を見て正面玄関脇の松の木の緑がきれいでドキドキしながら受付を済ませ教室へ。冬の教室暖房は、火鉢が一つでその上に弁当箱を乗せて温め、たまら

ます。

街並みからは四季折々の香りをもらい、故郷ってよいと思う反面、賑わいを見せていた本町通りが今は寂しくなり、つらい気持ちになります。

三月に七十五歳になりました。病いと仲良く付き合いつつ、日々感謝の気持ちを持ち続けて、元気で参りたい所存です。

私は、西原